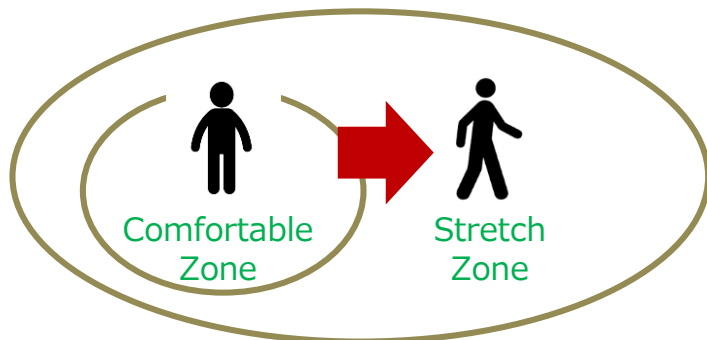


4 «究極のアクティブラーニングで問題解決型人材を育成»

留学は、そのものが360度24時間の、究極のアクティブラーニング。
さらに日本代表プログラムには、その教育効果を最大化する“仕掛け”が埋め込まれています。

- 学生にとって留学は、これまで生きてきた「枠」(Comfortable Zone)の外(Stretch Zone)へ踏み出し、海外というアウェーな環境で苦労や葛藤を乗り越える経験をすることで、大きく成長できる機会



- 留学は、2020年に向けた教育改革のベースとなる「学力の3要素」を鍛える手段にもなり得る

(3) これらの基になる、
主体性を持って**多様な人々と協働して学ぶ**態度

(2) それらを基盤にして、**答えが一つに
定まらない問題に自ら解を見いだしていく**
思考力・判断力・表現力等の能力

(1) 十分な知識・技能

学校教育法第30条第2項「学力の3要素」より

大学入試でも、今後は(2)や(3)を含めた多面的評価が増える見込み
Ex;) 国立大学も平成33年度までにAO・推薦入試を全体の30%まで拡大

- 留学のアクティブラーニング的教育効果を最大化する、日本代表プログラムの“仕掛け”

- ① 学生**自らが自由意志でテーマを設定し、留学計画を作成**
- ② 座学のみでなく、**“実践活動”を必須に**(実践活動の例：インターン、ボランティア、フィールドワークなど)
- ③ 選考基準は、学力や語学力ではなく**「熱意」×「好奇心」×「独自性」**
- ④ 手厚い研修(次ページ)で留学前に**意識づけ・目的の明確化**を、留学後に**リフレクション・将来への接続**を行う
- ⑤ 同じく地球規模で考え、高い志を持った**仲間との出会い・ネットワーク**